



MP RACING

SUGO SUPER TAIKYU 3 HOURS RACE

ENEOS SUPER TAIKYU SERIES 2022 Powered by Hankook

Round 3

カテゴリー : ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022
Powered by Hankook ST-X クラス

エントラント : MP Racing

カーナンバー : 9

マシン名称 : MP Racing GT-R

ドライバー : JOE SHINDO・柴田優作・影山正美・篠原拓朗

大会名称 : ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022
Powered by Hankook 第3戦
SUGO スーパー耐久 3 時間レース

レース時間 : 3 時間

開催地 : スポーツランド SUGO(宮城県)

開催日 : 2022.7.9~2022.7.10

天候 : 曇り時々雨(7.9) 晴れ(7.10)

イベント動員数 : 2,900人(7.9) 4,600人(7.10)

公式予選 A Dr. : 1'36.581 (ST-X クラス 6 位)

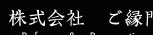
公式予選 B Dr. : 1'34.634 (ST-X クラス 6 位)

公式予選 (A/B 合算) : 3'11.215 (ST-X クラス 6 位)

公式予選 C Dr. : 1'25.293 (ST-X クラス 7 位)

公式予選 D Dr. : 1'40.509 (ST-X クラス 2 位)

決勝 : ST-X クラス 5 位
(3:01'33.858/119 周)





スーパー耐久シリーズ第3戦”SUGO スーパー耐久3時間レース”が宮城県のスポーツランドSUGOにおいて7月9日(土)~10日(日)に行われ、MP Racing はレギュラードライバーのJOE SHINDO、柴田優作、影山正美、篠原拓朗の4名をエントリーさせた。

今回の舞台となるスポーツランドSUGOはコース長が短いことから、例年2グループに分かれての決勝レースが行われ、今回はMP Racingが参戦するST-Xクラス(ST-X)、ST-Zクラス(ST-Z)、ST-1クラス(ST-1)、ST-Qクラス(ST-Q)の一部がGr.1に割り振られた。

昨年のレースでは終盤まで首位を走行していたものの、他車のスピンに巻き込まれて優勝を逃してしまったMP Racing。その雪辱を果たすべく、第3戦スポーツランドSUGOでの3時間レースに挑んだ。

7月9日(土) 予選

朝から不安定な天候で迎えた予選日。

午前中に行われた練習走行では朝から降り注いだ雨の影響からウェットコンディションで行われた。

午後になって雨は止み、路面が徐々に乾いていったことから、予選はドライコンディションとなると見られていた。

しかし、グループ2のAドライバー予選中から雨脚が徐々に強まり、ST-X、ST-1のAドライバー予選が始まる頃には完全にウェットコンディションとなってしまう。

これによりST-Xの前に行われたST-Z、ST-Qのマシンより悪条件での予選アタックとなってしまったJOEは1分36秒581をマークするにとどまり、Gr.1のAドライバー予選で17位。

Aドライバー予選が終了して間もなく天候は回復。しかしGr.1のBドライバー予選でまたも降雨。

柴田は奮闘するも1分34秒634をマーク

合算で3分11秒215という記録にとどまり、良いコンディションでアタックできたST-Z、ST-Qがグリッド上位を占め、逆にST-X、ST-1のマシンが後方に沈んでしまう珍しい予選結果となった。

NILZZ
RACING FACTORY

ENDLESS

Hankook
driving emotion

CURIOSITY Ltd.

TONE

FUNKY'S
CATERING STATION

nismo

MOTUL

Mizuno

SUMMIT CARS

GO&FUN
GREEN ENERGY DRINK

株式会社 ご録門
Reform & Renovation



その後行われた C、D ドライバー予選は全クラス混走で行われ、影山と篠原が決勝に向けた準備を並行して行いつつ、基準タイムをクリアした。

7月10日(日) 決勝

雲は出ているが快晴に見舞われたスポーツランド SUGO。

昨日の雨の影響か、蒸し暑さを感じる中、3時58分より3時間の Gr.1 決勝レースが始まった。

Gr.1 決勝出走 20 台中、16 番手からのスタートとなった MP Racing はスタートの混乱も想定して、スタートドライバーに影山を起用。

スタート直後の 1 コーナーは速度差のあるマシンが入り乱れて大混戦の様を見せる。しかし影山は上手く切り抜け、1 周目には総合 9 位、3 周目には全ての ST-Z クラス、ST-Q クラスのマシンを抜き、総合 3 位まで浮上した。

その後、影山は最初のピットインを 53 周まで引き伸ばし、首位に浮上したところで柴田に交代。

素早くピット作業を行い、次のスティントを柴田に託す。

A ドライバーである JOE の最低運転時間が定められているため、柴田はショートスティントとなることから、コース復帰後はスプリントレースのようにハイペースで周回を重ねる。

レースも残り 1 時間を切った 84 周目に 2 回目のピットイン。JOE に最後のスティントを託す。

レースは終盤に入り、大きな順位変動はなかったが、JOE は最後のスティントを走り切り、119 周を終えた時点でレース終了。MP Racing の第 3 戦は ST-X クラス 5 位という結果となった。

今回は決勝で良い走りを見せて、MP Racing の速さと強さをお見せすることができましたが、レース展開が我々に有利に働かず、望んだ結果とならなかったことは残念です。

次戦オートポリスは MP Racing とは非常に相性の良いコースなので、次こそは良い結果をご報告できるよう、頑張っています。引き続き、皆様のご声援、ご支援の程、よろしくお願いいたします。